

7 図書館及び図書等の資料、学術情報

(1) 施設・設備

【現状の説明】

本学図書館は、保健医療福祉の分野に関連する人たちの教育と研究のための図書館であり、この分野の学問と実践領域に関して情報提供を行っている。主として本学学生及び教職員の教育研究活動の充実に資するため、専門図書、学術雑誌、ビデオ等の収集に努めている。また、学外者に対して可能な限り門戸を開放することにも努めている。

本館は、平成11年4月竣工開館し、校舎部分と調和がとれたガラスを多用したデザインで地上2階建て、屋上が校舎部分の棟の2階と連結されていて、総床面積は2,912m²の独立施設である。

内部の構造は、(図7-1)のようで、1階部分は、出入り口の盗難防止つきチェックゲートがあり、付近には検索コーナー、事務カウンター、事務コーナー、雑誌・新聞・新着図書コーナーと続いている。左側奥に進むと隣接する開架書庫は段差によって、1mほど低い場所に設置されてスロープで連結されている。続いてある閲覧室(194席)は、1階の平面にある。さらに1階奥には、参考図書室とグループ研究室4室がグループ学習や研究のために用意されている。さらに開架書庫段差の近くには2階があり閲覧ブースとして、各席に情報端末を用意した8席がある。

また、図書館入口より右側には、情報ラウンジがある。情報ラウンジは75台のパソコンと7台の共用プリンター、ビデオ学習のためのモニターを設置している。隣接してスタジオとマルチメディア編集室がある。コイン式コピー機3台を設置している。

その他に、中庭に面して館長室と対面読書室が用意されている。事務コーナーの裏側には保存書庫もあり、全書架収容能力は、20万冊である。

【点検・評価】

本館は、本学キャンパスの中央に位置し、使い勝手がよい。各スペースの規模、蔵書収容能力、ともに適切な規模であり、施設・設備共に高水準といえる。

しかし、細部のデザイン的な段差などはむしろ実用的でないという意見もある。

【将来の改善・改革に向けた方策】

当面は施設の改修は考えられない。そのために現在ある施設の有効活用の工夫が望まれる。

また、設備面での改善策としては、パソコン台数が増加され、さらに、図書自動貸出返却機が導入された。地域社会への開放という貢献を含めて、本館の有用性がさらに拡大すると思われる。

The floor plan of the 1st floor is divided into two main utilization areas:

- Student Utilization Area (Green):** Includes the main reading area (開架書庫), reference library (参考図書室), and various reading rooms (閲覧室). It also features a large entrance hall (エントランスホール) and an information lounge (情報ラウンジ).
- Staff Utilization Area (Orange):** Includes the library office (図書館事務室), storage library (保存書庫), and a room for resolving issues (荷解室). It also contains a multi-media room (マルチメディア読書室) and a studio (スタジオ).

Other labeled areas include the group study room (グループ研究室), restrooms (W.C.), and a courtyard (中庭).

【現状の説明】

図書館は常勤3名、非常勤4名の職員で運営している。NII（National Institute of Informatics国立情報学研究所）が主催するNACSISの講習会への参加をはじめ、各種の研修機会を確保し、職員の職務遂行能力を高めるように努めている。

2 開館時間

開館時間は通常午前 9 時から午後 9 時まで（第 2 水曜日は午後 1 時開館）、長期休業期間については午前 9 時から午後 5 時まで（第 2 水曜日は午後 1 時開館）である。

3 予算

平成14年度図書館の運営費は47,638千円である。資料収集28,961千円、資料の整理5,253千円、資料情報の提供・利用案内13,424千円となっている。

【点検・自己評価】

図書館職員については、平成11年度常勤 3 名、非常勤 2 名で開学した。これは同規模の公立大学のなかでもっとも少ない職員数であり、平成12年度、14年度に非常勤を各 1 名増員した。

開館時間は平成13年度まで、通常午前 9 時から午後 7 時まで（第 2 水曜日は午後 1 時開館）、長期休業期間については午前 9 時から午後 5 時まで（第 2 水曜日は午後 1 時開館）であったが、開学以来、学生・教員から開館時間の延長が要望されており、上記の職員増により、平成14年 5 月から通常期間 2 時間の開館時間延長が実現した。

図書館運営費の70%以上を資料の収集と整理が占める運営は、非常に健全であるといえる。しかし、その一方において、開館時間の延長は増員措置がなければ実現できない等、サービスの拡大の余地が考えられないほど厳しい運営体制となっている。

【将来の改善・改革に向けた方策】

開館時間の延長とともに、土・日曜日の開館希望もある。現状での実現は困難であるが、自動貸出返却機や入退館管理システム等の導入により、いわゆる「無人開館」ができるように図書館の施設設備を改善してゆく方策が必要である。また、県民から利用の要望も増大しつつあり、図書館の地域開放を推進するために、一層の努力が求められている。

(3) 図書館資料の整備

【現状の説明】

図書に関しては、埼玉県立大学の設立に伴い、埼玉県立衛生短期大学から移行した41,113冊に加え、平成10年度から平成14年度までの 5 年間に段階的な整備を行い、2 倍を超える83,668冊までに増加した。（表 7 - 1）

表 7 - 1 図書及び視聴覚資料の整備状況

	和書（冊）	洋書（冊）	図書計（冊）	視聴覚資料（点）
短大からの移行分	36,783	4,330	41,113	66
平成10・11年度整備	29,466	8,723	38,189	988
平成12・13年度整備	3,611	425	4,036	175
〃 除籍	1,568	251	1,819	0
平成14年度整備	3,509	130	3,639	78
平成14年度除籍	765	725	1,490	0
計	71,036	12,632	83,668	1,307

雑誌に関しては、平成12年度から順次、必要度の見直しを行っており、平成14年度は28種を削減し、485種となった。(表7 - 2)

表7 - 2 平成14年度における雑誌の整備状況 (単位：種)

	専 門	人文科学	社会科学	自然科学	その他	計
和雑誌	304	4	3	3	10	324
洋雑誌	159	-	-	-	2	161
計	463	4	3	3	12	485

また、図書館の教育・研究機能の一層の充実を図ると共に、学内者の著作物を広く紹介することを目的として、平成11年度に「学内著作物コーナー」を設置し、平成14年度までに316冊の圖書の寄贈を受けた。

【点検・評価】

蔵書数83,000冊のうち、およそ半数が平成10年度以降に購入されたものであるため、蔵書の情報鮮度が比較的高いといえよう。また、各学科等からほぼ毎月提出される購入希望図書リストを基に購入しているため、講義や実習と密接に関連した必要度の高い資料がそろえられている。雑誌についても、平成14年度はタイトル数が減少したが、専門分野を中心に充実が進められている。

さらにビデオなどの視聴覚資料の収集も1,000タイトルを超え、授業や自習等多方面で活用されている。

しかしながら一方で、図書・雑誌共に看護・医療・福祉といった専門分野に関する資料の比重が高く、一般教養分野の資料が不十分なことも事実である。同様に洋書・洋雑誌の整備も十分とは言えない。

【将来の改善・改革に向けた方策】

平成10年度からの4年間は、県立大学の設立に伴って蔵書を大幅に増やすことができたが、今後は今までどおりの図書整備費用を期待することは難しい。そうした状況の中で、本学図書館として求められていることは多方面に及んでいる。第一に専門書の充実はもとより、緊急性の高い雑誌、特に洋雑誌、さらに県民のニーズに応えるべく一般図書についてもその充実に努めなければならない。

そのためには、まず教職員全体が共通の意識を持って図書館資料充実の必要性を認識することが不可欠である。さらに本学の情報伝達の中核をなす学内LANを利用して、電子ジャーナルの導入を図ることも必要であろう。特に単価の高い洋雑誌については有効な手段だと思われる。

(4) 図書館の利用

【現状の説明】

本学図書館の開館時間は、平成13年度までは通常9時から19時(長期休業期間には17時)までであった。しかし、学生からの要望であった5時限講義終了後や実習中の図書館利用を可能にするために平成14年度に非常勤職員を増員し、21時までの開館時間延長が実現、より利用しやすい状況になっている。

本学図書館利用の状況は、以下のとおりである。

図 7 - 2 平成11～14年度の入館者数

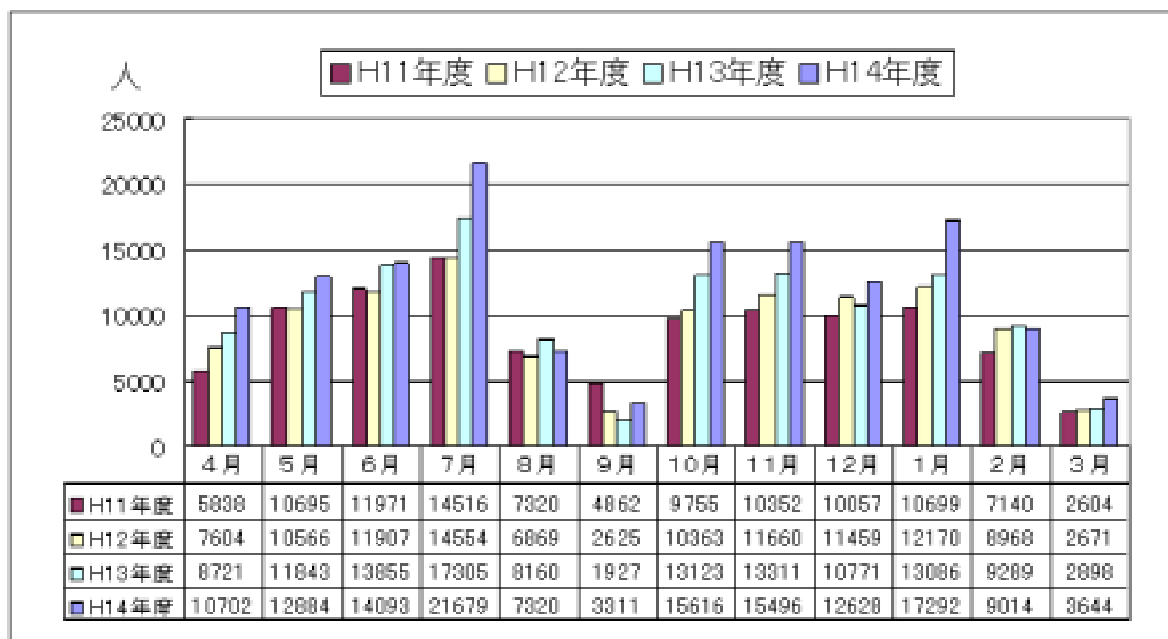


図 7 - 3 平成11～14年度の貸出人数

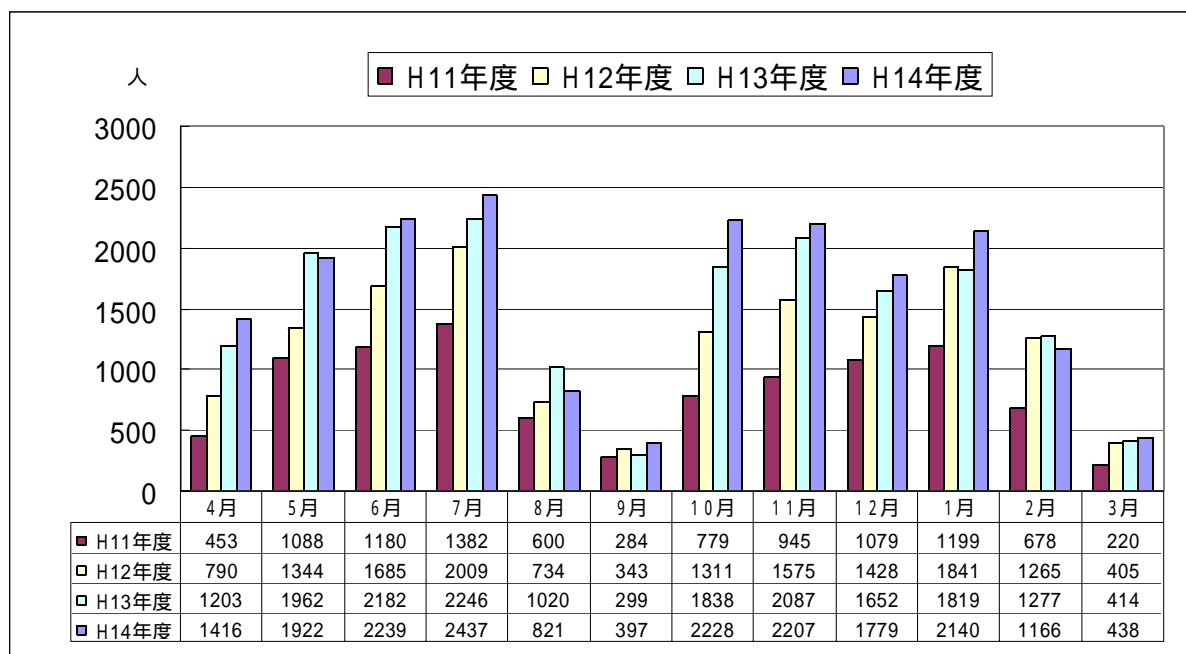
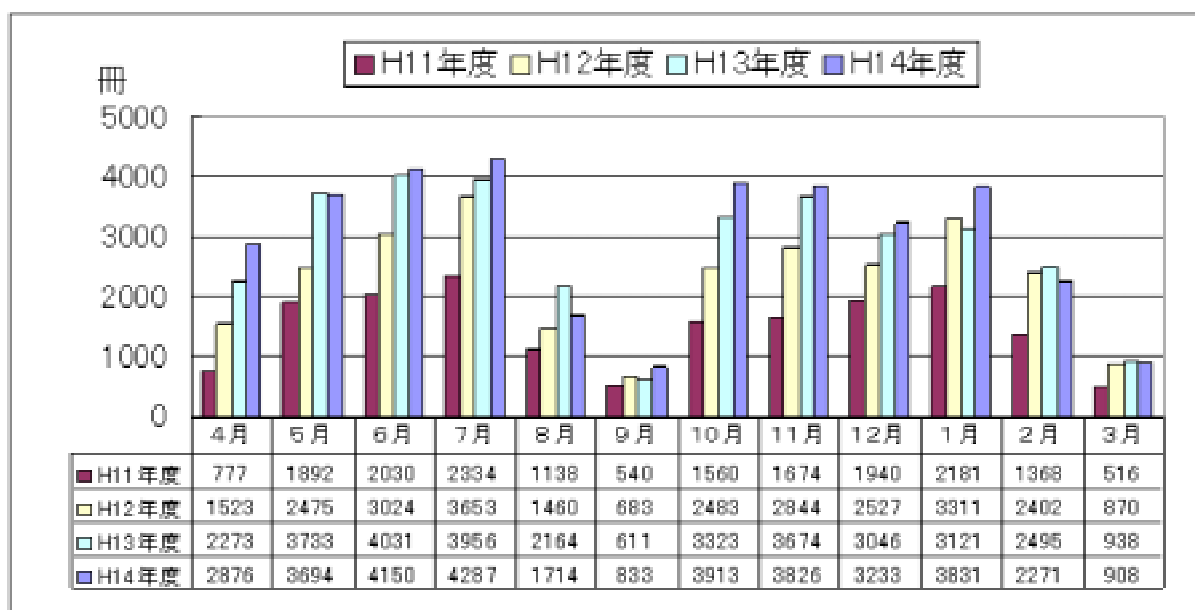


図 7 - 4 平成11～14年度の貸出冊数



利用状況を詳細にみると、234日開館した平成14年度の利用状況は、総入館者数は143,679人、1日平均入館者数は614人であった。また、1日平均貸出者数は82人で、1日平均貸出冊数は152冊であった。

時間別の入館者数は、9時～12時に31,184人、12時～13時に16,870人、13時～15時に33,223人、15時～17時に31,576人、17時～19時に22,267人、19時～21時に8,157人であり、17時以後の利用も多かった。

表 7 - 3 時間別入館者内訳

(人)

時 間	9：00～ 12：00	12：00～ 13：00	13：00～ 15：00	15：00～ 17：00	17：00～ 19：00	19：00～ 21：00	時 間 外	合 計
年度累計	31,184	16,870	33,223	31,976	22,267	8,157	2	143,679

時間外利用は教職員

平成14年度の図書館外貸出利用者は19,190人で、その内訳は、学生16,921人、教職員1,381人、学外者888人であった。その総貸出図書は35,536冊で、学生36,232冊、教職員3,588冊、学外者1,716冊である。尚、本館の貸出限度冊数は学生5冊、教職員10冊、学外者3冊で、貸出期限は学生2週間、教職員2週間、学外者1週間となっている。

表 7 - 4 文献複写利用人数等

	利用人数(人)				複写枚数(枚)			
	学生	教職員	学外者	計	学生	教職員	学外者	計
図書	760	128	311	1,199	5,603	1,844	4,306	11,753
雑誌	611	641	422	1,674	6,007	12,078	6,428	24,513
合計	1,371	769	733	2,873	11,610	13,922	10,734	36,266

文献複写利用は学生が最も多く、教職員、学外者と続く。

学生は図書760人、雑誌611人と図書の複写が多く、教職員は図書128人、雑誌641人であり、雑誌の複写が多かった。また、これを枚数でみると、学生の複写枚数は図書5,603枚、雑誌6,007枚で、教職員の複写枚数は図書1,844枚、雑誌12,078枚であった。文献検索等の利用研修が効果を表し、OPACやCD-ROMが活用され、雑誌バックナンバーの利用が増大していると考えられる。

学外者の利用については、平成14年度の館外貸出証発行数は258人であり、閲覧のみの人数は974人であった。平成12年度以後、学外利用者も増加している。

学外者の文献複写は図書311人、雑誌422人であり、学外者は雑誌の利用も多い。また、文献複写枚数は図書4,306枚、雑誌6,428枚であり、学外者一人あたりの文献複写枚数も多くなっている。

【点検・評価】

開学以来、本学図書館の利用が急激に増大している。これは平成14年度が大学の完成年度であるというだけでなく、学外利用者の増加も関与している。こうした状況下、学生等の要望に応えるべく、職員確保と勤務調整をはかり、開館時間の延長が実現できたことは大きな成果であるといえる。

しかし、17時以後を図書館職員1名と警備員1名とで対応する等、人員不足の現状が職員に負担を与えている。平成15年度から自動貸出返却機を導入したが、開館時間延長や利用者増大に伴う図書館職員の負担を軽減する努力はなお必要である。

【将来の改善・改革に向けた方策】

本学図書館は、学生からの要望の強い土・日開館や、一般県民に広く開放することを含めた学外利用者増大への対応を望まれている。

学外者への対応については、平成14年度に「埼玉県立大学図書館県民公開規程」を見直し、利用資格等について検討した。平成15年6月からは同規程が改正され、これまで、「保健・医療・福祉従事者」に限定していた貸出要件を改め、18歳以上の県内在住、在勤、在学の者に範囲を拡大した。

図書館職員を増員することができない状況下で、土・日開館等の要望を実現させていくためには、自動貸出返却機導入だけでなく、「無人開館」の実現に向けた施設改善の検討が必要である。

実習期間中の図書利用のための貸出期間の延長や貸出冊数の増冊希望に対しては、貸出冊数の緩和について検討する。

(5) 学術情報へのアクセスと相互利用

【現状の説明】

文献検索においては、ネットワーク対応のCD-ROM検索が可能となっている。ネットワーク対応のCD-ROMは、「J-BISC」「医学中央雑誌」「CINAHL」「MEDLINE」「CinPSYC」「世界大百科事典」の6種で、図書館情報ラウンジ、研究室、情報処理実習室およびCAI実習室の端末から検索できる。

平成14年度は48,622人が情報ラウンジを利用している。

また、平成14年度からは、NIIの情報検索サービスNacsis-IRの機関別定額制に参加した。これにより利用者個人の負担なく、学内LANから情報検索することが可能となった。

ILL (Inter-Library-Loan：図書館間相互貸借) の現状を、文献複写のデータ (表7-5) より

見ると、他機関への文献複写依頼件数が他機関からの受付件数を上回っている。内訳に関しては本学からの依頼先は他大学・国会図書館が77.8%を占めるのに対し、受付は県内医療機関等が83.4%に達する。貸借に偏りが認められる。また、文献複写の依頼件数は飛躍的に増大しており、そのため、学生の利用を1ヶ月に3件に制限し、所蔵確認や料金の振込を利用者のセルフサービスとせざるを得ない状況にある。しかしながら、NII提供の総合目録データベースWWW検索サービスNacsis-Webcatの活用により、加盟する大学図書館の図書・雑誌等の所蔵が速やかに把握でき、これによって文献複写依頼が円滑となりILL促進に効果を上げている状況でもある。

表7 - 5 相互利用（平成14年度 文献複写件数）

	大学・短大・国会図書館	県内医療機関 他	計
依頼	585	167	752
受付	85	427	512
合計	670	594	1,264

【点検・評価】

本学図書館において、学術雑誌の利用が増加しているが（表7 - 4）、ネットワーク対応のCD-ROMが研究室からもアクセス可能であることが文献検索に大きな成果を上げ、この増加に大きく貢献していると考ええる。

また、Nacsis-IR機関別定額制への参加は平成14年度からであるため活用状況の評価には時期尚早であるが、機関別定額制ページからは、電子図書館サービスNacsis-ELSにアクセスすることも可能であり、今後の活用が期待される。

ILLにおいては、文献複写依頼時の図書・雑誌所蔵確認、料金振込みのセルフサービスが利用者に不評であるため、平成14年度は公費での対応が可能な国立大学への徴収猶予の申し込みを拡大した。利用促進に向けて対応した点は評価できると考える。また、利用の偏在が認められているが、文献複写受付が県内医療機関が多くなっていることに関しては、県内医療機関からの研修の受け入れ、学生の県内医療機関での実習など、大学と県内医療機関との連携の反映でもあり、肯定的に評価できると考える。他大学からの文献複写依頼が少ない点については、今後、本学からの依頼内容とも照らし合わせ、所蔵雑誌の検討も必要ではあるが、県立大学図書館として新たなスタートを切ってまだ5年目であり、この間蔵書を増やしている段階であったことから、バックナンバー不足の結果、依頼に至らないことも十分考慮すべきと思われる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

学術情報へのアクセスと相互利用は、本学における活用状況はもちろん、学術情報界全般の流れに速やかに対応しつつ改善、改革していく必要がある領域である。

現在、文献検索においては、データベースを利用して目的とする学術論文の掲載雑誌を検索し、複写を取り寄せるという従来のILLの手法から、電子雑誌（ジャーナル）を全文データベースとして検索し、そのまま出力するという方式に移行しつつある。学術情報の入手速度は学術研究の競争力に大きな影響を与えるものであり、電子ジャーナルの導入は急を要する。本学図書館においても、今後これらの流れに適時に対応できるよう、情報を収集し、対応の準備に取り組んでいくことが重要と考える。